

アルストロメリアの高品質生産

～ 秋定植による収穫時期の移動と収益の向上 ～

要約

秋定植を行い無加温で越冬させることによって多くの品種で採花盛期が夏秋期となり、2L規格率が向上し、凍害による枯死も見られなかったことから、販売試算額が増加し、一冬分の暖房費が削減できることを確認しました。

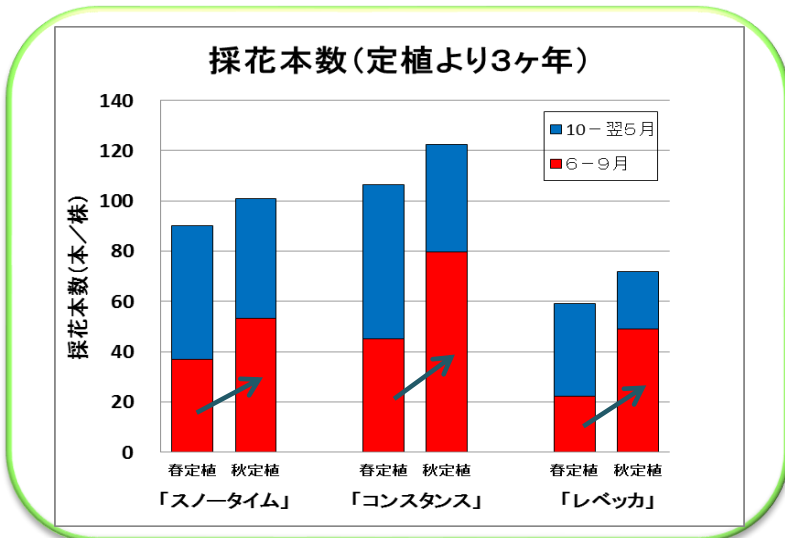
研究成果の概要

1 背景・目的

本県のアルストロメリア栽培は、春に定植し冬期間の微加温を経て4月、5月が採花の盛期となるため、他産地と出荷時期が重なり販売単価の低迷が課題となっています。そこで秋に定植することによって、採花期間が切り花単価の高い夏秋期に移動させることは可能か、また無加温で越冬が可能かどうか調査しました。

2 内容

- ◆ 高単価となる6月から9月の採花本数が多くの品種で1.5倍から2倍程度に増加します。
- ◆ 春定植と同等以上の切り花品質が得られ、高規格品割合が増加します。
- ◆ 無加温での越冬で、地上部の低温障害は見られますが枯死株は無く、採花時期までには回復します。冬期間の暖房費が3割程度削減できます。



3 活用等

- ◆ 春定植の作型と組み合わせることで、継続出荷・作業時間の分散化が期待できます。
- ◆ 高単価の期待できる夏秋期のお荷にターゲットを絞った秋定植の作型は、夏季冷涼な本県に有利な作型です。



関連情報

近年、秋定植に対応した種苗の販売も行われており、春定植用の苗を注文する際に、秋定植を希望すれば9月から10月の定植適期に、苗の入手が可能です。